

山行報告

2007年夏山山行記録

山域：北アルプス表銀座コース
山名：燕岳・槍ヶ岳
日程：平成19年8月16日～20日

第1日目

ポイント	着	発	メモ
JR姫路		6:17	新快速
JR加古川		6:30	近江塩津行
JR米原	8:50	9:09	普通 大垣行
JR大垣	9:43	9:55	快速 豊橋行
JR名古屋	10:25	11:00	特急ワイドビュー しなの9号
JR松本	12:59	13:10	普通
JR穂高	13:36	13:40	南安タクシー3台
中房温泉	14:20～30		

第2日目

ポイント	着	発	メモ
中房温泉		5:00	
登山口	5:05		合戦橋たもと
第1ベンチ	5:50	6:00	
第2ベンチ	6:35		通過
	6:50	7:00	休憩
第3ベンチ	7:20		通過
富士見ベンチ	8:00	8:15	
合戦小屋	8:55	9:15	
合戦ノ頭	9:35		通過
	10:10	10:20	休憩
燕山荘	10:35	10:45	
燕岳	11:15	2分程で引き返す	
燕山荘	11:40	12:05	
蛙岩	12:40		通過
大下りの頭	13:00	13:10	シュリング装着
為右衛門吊岩			確認出来ず
小林喜作のレリーフ	14:40		通過
切通分岐点	14:50		通過
	14:55	15:05	休憩
大天井ヒュッテ	15:45		

第3日目

ポイント	着	発	メモ
大天井ヒュッテ		4:40	
貧乏沢入口	5:10		通過
ビックリ平	5:20	5:25	
	5:50	6:10	休憩
赤岩岳	6:40		通過
	7:00	7:10	休憩
ヒュッテ西岳	7:45	8:00	
	8:05	滑落事故(10M位)発生 ヒュッテ西岳に引き返す	
ヒュッテ西岳		9:25	
	10:15	10:25	休憩
水俣乗越	10:50		通過
	11:05	11:15	休憩
	12:20	12:30	休憩
	12:45	12:55	休憩
ヒュッテ大槍	13:15	13:30	
槍岳山荘	14:25	15:20	
槍ヶ岳	15:50	16:00	
槍岳山荘	16:25		

第4日目

ポイント	着	発	メモ
槍岳山荘		5:10	
ブドウ谷	11:10		通過
	11:20	11:40	休憩
白出小屋	12:05		通過
	12:35	12:55	休憩
穂高平避難小屋	13:05		通過
林道出合	13:35	13:45	
新穂高バス停	14:15	14:40	旅館の車で
佳留萱山荘	14:50		

第5日目

ポイント	発	着	メモ
佳留萱山荘		8:30	ジャンボタクシー、 青春18キップ
JR加古川	17:36		



燕山荘より裏銀座方面を望む

◆07年夏、槍ヶ岳集中山行(表銀座コース)に参加して

『急登を攀じ、コマクサ咲く稜線から東鎌尾根を越えて槍の頂に立つ』

上 田

5時まだうす暗い中房温泉を発つ、トップはリーダー砂川会長、ラストは小谷さんで10人のパーティ。昨日は加古川駅に集合しJRの青春18キップと特急しなの、穂高からタクシーを利用して中房温泉に入った。中房温泉はウエストンも泊まったという岳人には名高い名湯で、ここで英気を養っての出発ではあるがのっけから急登である。ここはアルプス三大急登の一つ合戦尾根、すぐに汗がふきだす。登りはじめておよそ4時間合戦小屋に着き名物のスイカを食べる。汗をかいた後の冷えたスイカは実にうまかった。

合戦小屋からは傾斜も少しゆるくなり大天井岳に続く稜線が見え隠れする、1時間半で燕山荘の下に出るといっきに展望が開ける。晴天を突く槍の穂先、そこへ続く表銀座コースの稜線、高瀬川をはさんでそびえる裏銀座コースの峰々、昨年登った鷲羽岳も見え、まじかに雪山と見まがう燕岳が大きい。「息を呑むような」「見飽きることのない」絶景に感動する。汗をかき、苦しみに耐えて登ってきたものだけが味わう感動で、これがあるから山はやめられないというもの。燕岳を往復しゆっくり休んで12時ちょうどに燕山荘を出発、ここからしばらくは爽快なコマクサ咲く稜線歩き、まさに空中散歩。大天井岳が近づいて、今日のコースの難所となる切通手前の休憩でシュリングをつける。無事切通を通過し、捩じり鉢巻をした愛橋のある小林喜作のレリーフをみて喜作新道に入り大天井岳西側斜面の巻道を行く。出発から約10時間、疲れてきたのかこの巻道は長く感じた。16時大天井ヒュッテに着きコーヒープレイク、単独行では得られぬ至福の一時だった。夜は満点の星空を見る。

4時起床、4時40分大天井ヒュッテを出発する。今日は東鎌尾根を登り槍ヶ岳に至る一日だが、西岳ヒュッテまでは比較的平坦な道、40分ほどで「ビックリ平」と標識のある稜線に出て前方に朝日を受ける槍ヶ岳と右手へ屏風のようにそそりたつ北鎌尾根、左手には穂高連峰、後方の常念山脈はまだ黒々としている。西岳の左斜面を巻いて7時45分西岳ヒュッテ着、休憩。ここでも展望を満喫。

8時出発、西村さんの事故はこの直後だった。小屋に近かったこと、自力で歩けたことなど、不幸中の幸いと、会長や西村さんのしっかりした判断があって山行を続けることができた。



9時40分気をひきしめて再出発、水俣乗越までは急な下りが続く、鎖や梯子もある。

11時過ぎ水俣乗越、雪解けが遅かったからかニッコウキスゲがむかえてくれた。ここからいよいよ東鎌尾根の登り、見上げると梯子が連続している。一步一步慎重に足を進める。東鎌尾根の右手は天上沢に切れ落ち、左手は槍沢に切れ落ちていて真下に槍沢の登山道が見える。横尾を出発した上高地組はちょうどこの下あたりを進んでいるのではないかと思います。思いながら足を運ぶ。エンジン全開で頑張るが苦しい、13時15分ヒュッテ大槍、槍ヶ岳に手が届きそうに迫る。

もう一息、と思うがここからまだ一時間の頑張りが必要だった。14時過ぎ槍岳山荘に着く、上高地組が迎えてくれてうれしかった。

2日前に落石による大事故があったとのこと、ちょっと躊躇したが槍ヶ岳山頂をめざす。鎖、梯子を三点確保でしっかり握って100m余の岩峰を登り今回山行の目標の山頂に立つ。槍岳山荘は収容人員650人の大きな山小屋、まわりはご来光を待つ人でいっぱい、山頂をめざす人のヘッドランプも点々とつづく。私たちも小屋の前でご来光を待つ。最悪は雨でもしかたないと思っていたのでこれは望外のよろこび、5時10分槍の穂先のちょっと右手からのご来光を見る。

槍岳山荘から少し南下し飛騨乗越で右手へ分岐、笠ヶ岳を正面に見ながら、岩礫の大斜面をジグザグに下る。やがて道はオンタデなどの植物の茂みをわけて下り、森の中に入る。下りはじめて3時間余り、槍平小屋に着いて上高地組とともにコーヒープレイク。このあと4時間近く下り続けて新穂高温泉バスターミナルに下山し、昨年と同じ佳留萱山荘に宿泊、食事や温泉を楽しんだ。

20日も4時に眼が覚め1時間以上も露天風呂に入り、誰もいないのを幸い高歌放吟する。

8時30分山荘を出発、タクシーで高山に出てJRの青春キップで一日かけて、17時36分加古川に無事(とっていいかどうか)着き、18時過ぎに帰宅した。みなさんのおかげで好天に恵まれ、よい山行ができました。

◆表銀座コース 大瀬

1日目 初めて4泊5日の山行に参加させていただきました。

メンバー12名、6時15分JR加古川駅に集合、6時30分発の新快速で米原、電車を乗り継ぎ大垣、名古屋、松本、穂高には13時36分着、ここからタクシー3台で中房温泉に14時45分着。ここは海拔1,462m燕岳登山口にある温泉で昔は湯治場だったそうでいい湯でした。一人体調をくずし寝込む。持参の弁当が原因だったようです。

2日目 4時起床、2人が帰ることになる。

10人で5時出発、朝食は弁当にしてもらい途中で食べることにした。登山口からすぐ急な登りが続く、1時間歩いても真下に中房温泉の屋根が見え高度は稼ぐが前に進んでいないようだ。急な登りが続くが、1時間歩いて、10分休息ゆっくり慌てずに一定のペースで登ってもらって意外と楽でした。富士見ベンチからの眺めがよく「あれほんとうに富士山ですか？」

合戦小屋にこの名物スイカの切売りがある。半分の400円づつ食べる。汗した後の味は格別でした。森林限界を越えて燕山荘が見え、キャンプ地を通り稜線へ立つと、対岸に裏銀座の稜線や槍、穂高連峰の山並みが目の前に広がり自分がアルプスに來たと実感した。荷物を置いて燕岳の山頂を往復する。高山植物の女王と呼ばれるコマクサも数多く見ることができた。燕山荘での休息中に松尾さんに出会う。12時05分出発、縦走に踏み出す。起伏が緩やかで歩きやすく、見通しも良く景色を見ながら切通し岩のハシゴを通り、大天井岳を巻いて、大天井ヒュッテへ。巻き道は、尾根が多くかなりの時間がかかりました。15時57分着、夕食までの時間にお湯を沸かしコーヒータ임です。

3日目 4時起床、4時40分出発巻き道が多く高山植物、花も多く咲き眺めもよく、その中で朝の弁当を食べ、ヒュッテ西岳へ7時45分着。休息8時出発。5分ほど下った時、パーティの一人が、石に躓くか石を踏みはずすかでバランスを崩して、10mほど転落して仰向けで止まる。ケガは鎖骨を骨折しているようでヒュッテ西岳に救助の要請をし、自力で歩けるので全員西岳へもどりへりを待つことに。手首もはれている。付き添いは・・・、



大丈夫と一人で下山。ヘリを見送り9時24分再度出発、東鎌尾根の入り口、最低鞍部まで200m急な下り、途中ハシゴ、鎖場があり緊張した。稜線は痩せて陰しく慎重に通過、尾根を登るにつれて槍の穂先が迫ってくる。ヒュッテ大槍13時53分ごろ、この日は、暑くて冷えたポカリで喉をうるおし、無事難所を通過したと思う。小屋から槍の肩まで1時間ほどの道が岩場からガラ場になると、下からオーイ、大きな声、舩賀さんです。槍の肩で上高地組と合流、槍山荘14時25分着。15時25分発憧れの槍の頂上へ、360度のパノラマは素晴らしい。

4日目 4時起床、外は風がきつく寒い、合羽を着て身支度を整える。槍の朝は早く、出発するグループ、ご来光を見て槍の穂先をめざす人、山の上のラッシュアワーのようで慌ただしい。私たちもご来光を見て出発することに、雲海が広がり彼方には、日本一の富士山を見ることができ、別世界のような光景でした。5時10分出発、今日は、新穂高温泉まで長い下りです。ガレ場のつづら折りの登山道を注意しながら下り槍平小屋8時18分着。水を沸かして、コーヒーを飲み上高地組を待ちます。9時15分出発森に包まれ長い下りとなり、この山旅が終わ



るのを感じながら次はどこに行けるかなあ、これが山登りの始めですかね。14時13分新穂高温泉着、旅館の車の出迎えを受ける。温泉で、手、足を伸ばして名物料理で会話もはずみ、夜はふける。

5日目 8時30分旅館からタクシーで高山駅へ、電車を乗り継ぎ加古川駅へ17時36分着、ありがとうございました。

事故は突然起きる。

躓いたり、滑ったり、だれでも経験があると思う。12、13kgのリックを背負い下り坂道で後ろではなく前に体重がかかりよろけた

と思います。一日も早い回復を祈ります。

今回、4泊5日 全行程 晴、ガスも出ず山岳風景を楽しめたこと、コマクサ、その他の高山植物がたくさん見られました。山小屋も人が少なく、思ったより、リラックスで楽しい山行でした。

◆今年の夏山（新穂高～槍ヶ岳 笠ヶ岳コース）をふり返って

山城：笠ヶ岳コース

今山

山名：槍ヶ岳・笠ヶ岳

日程：平成19年8月15日～19日

☆アプローチ

参加メンバー決定後、学習会、例会等にて都度個別のミーティングはしたがメンバー全員による話し合いは8/12 1回のみ、ボッカトレも仕事や休暇取得都合で全員がそろうことなくメンバーの登山経験から、私としてはやや不安の準備であった。8/15（水）21:00 JR加古川駅集合、全員少し緊張の様子は見えたとやる気満々定刻に出発した。車は利弘さんが手配した3.5Lのワゴン車、行程は北神戸線、中国道、名神を北上し一宮インターを東海北陸道へ、飛騨清見 高山市内 新穂高へ向かった。車中ドライバーに気兼ねすることなく充分睡眠を取るよう指示をした。途中2度のトイレ休憩以外はノンストップで私も運転手スペアとして心の準備はしていたが夜の一人運転はさぞ疲れたことだろう。



☆新穂高～ 槍平小屋

8/16 3:20 ほぼ予定時刻に新穂高の無料駐車場到着、すぐ車の中で仮眠をした。6:00 起床、目覚めよし結構眠れるものだ、砂川さんへメールを入れて持参の朝食を済ませ登山口のあるバスターミナルへ天気は快晴はるか彼方に目標の山々がみえる、入念なストレッチをして入山届けを提出しいざ出発、しばらく林道歩きの後夏山近道コースで穂高小屋へ、一息入れて途中2度程谷を横切りガレ場の大きな谷が白出沢であった。この辺りから車移動による疲れか、リュックの荷が重いのか、歩行と休憩のペースが乱れた。今日の行程はあと少しだ頑張ろうと引った、気がつけば滝谷避難小屋をとおるすぎえていた、10:30 藤木リレー前水場で休憩、冷たい水で顔を洗ったが手を5秒ほど

しかつけられなかった。水を補給、上の小屋は雨水かもしれないので2Lは持とうと言った、ここからはしっかりした歩きやすい山道で身体も慣れて快適な歩行だった。11:55 槍平小屋に着いた、受け付けを済ませ(60歳以上は500円割引)すぐ荷物を整理しとりあえずビールでのどをうるおし、汗のしみこんだ下着等を水洗いし、荘所さん持参の梅酒他を外の庭でみんなで車座になり頂いた、つまみが出てくる出てくるこりゃザックが重いはずだ。夕食(17:30)まで各自思い思いに昼寝をしたり付近を散策したりして時間を過ごした。明日の行程を地図で確認し18:50頃には就寝した。

☆槍平小屋～ 槍ヶ岳～ 樺沢岳～ 双六小屋

4:00 起床、朝食は弁当にしてもらい5:00 出発した、天気は今日も快晴だ6:00 中の沢にて朝食、全員残さず食べていたので安心した。こつこつ歩いているといつの間にか道はつづら折れの急登になった、上を見上げると千丈乗越や槍山荘が見え下山してくる人たちが「大変ですね」と声をかけてくれる。休憩を随所に挟みペースを落としゆっくり歩いた、8:50 ついに飛騨乗越に出た、ここまでくれば元気も出るテント場を通り槍ヶ岳山荘9:10 到着した。休憩の後サブザックにて山頂に向かう、心配していたラッシュもまだ早い為かそうなかった、危険な岩場や梯子登りだがホールドや足場はしっかりしており慌てず3点確保を忠実に守っていった。頂上は晴天360度のパノラマだ、燕岳、大天井岳そして常念岳が目前にせまっていた、他のグループも明日は頑張っていよいよ心の中でつぶやいた。山荘でそれぞれコーヒーを飲んだり、おみやげを購入しいざ西鎌尾根へ、千丈乗越までつづら折れ道を快調に高度を下げた。クサリ場を通りはい松のわき道を通しようとしていた所、ライチョウの親子(5匹)に出くわすカメラを構えとなんとこちらに近づいてくるではないか!思わず心の和む瞬間であった。途中松下さんが熱心に花の写真を撮る、硫黄沢乗越を過ぎた辺りから一面ガスが出た、ここからは時間にしてみれば20分程度で

槍ヶ岳～笠ヶ岳縦走

8月15日			
ポイント	着	発	メモ
加古川駅北口	21:05		
多賀SA	22:25	22:40	
8月16日			
新穂登山口	3:10	7:00	
穂高平小屋	8:10	8:30	
白出小屋	8:55	8:10	
藤木リレー	10:30	10:45	
槍平小屋	11:55		昼食
8月17日			
槍平小屋		5:00	
中の沢	6:00	6:25	朝食
大喰沢	7:30	7:40	
飛騨乗越	8:50		通過
槍ヶ岳山荘	9:10	9:20	
槍ヶ岳山頂	9:40	10:00	
槍ヶ岳山荘	10:20	11:35	昼食
西鎌尾根入口		11:38	
千丈沢乗越	12:30	12:45	
硫黄沢乗越	14:20		通過
樺沢岳	15:38	15:45	
双六小屋	16:25		

8月18日			
ポイント	着	発	メモ
双六小屋		5:00	
花見平	6:00	6:20	朝食
弓折乗越	6:30		
大ノマ乗越	7:50	8:00	
大ノマ岳			
秩父平	8:30	8:45	
抜戸岳	9:58	10:03	
笠新道分岐	10:10		通過
抜戸岩	11:15		通過
笠ヶ岳山荘	11:45	12:00	
笠ヶ岳山頂	12:15		
笠ヶ岳山荘	12:45		
8月19日			
笠ヶ岳山荘		6:05	
笠新道分岐			
杓子平	7:35	7:45	
笠新道登山口	10:55		下山
新穂高バス駅	11:40		昼食
露天風呂	13:00		
砂防会館		14:30	
佳留萱	15:00		



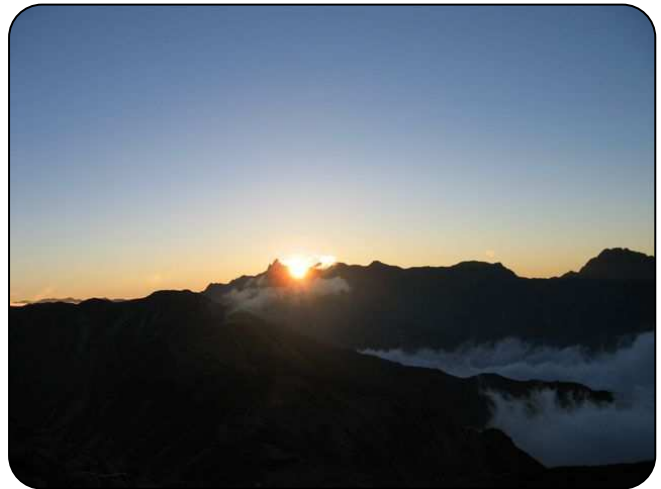
登れる小さなピークの連続でこれが意外と疲れ、なかなか手ごわい、樫沢岳手前では思わずルートを確認したほどであった。頂上で記念写真を取り安堵感を胸に一気に双六小屋へくだった。前後の行動は前日と同じく夕食まで酒を飲むことは忘れなかった。足に少し違和感を訴えた川鶴さんは入念に治療をしていた。ここの小屋の良いところは、予約の強みか部屋は我々だけの5人部屋であり、強力な乾燥室があったことあと労山の会員割引が利いたことであった。18:50分ごろにはおやすみなさいだった。

☆双六小屋～ 大ノマ岳～ 抜戸岳～ 笠ヶ岳 (山荘)

昨夜の状況は、そろそろ疲れたのか山生活に慣れたのかすごく静かであった。今日も天気がいい5:00出発、ランプはいらない弓折分岐までは慣れ親しんだ道だ、夜が明けて昨日苦労した西鎌尾根や槍ヶ岳 西穂高付近までが真っ黒なシルエット、下方は雲そして上空は夜明け前のモルゲンロート(朝焼け)写真を撮りながらの歩行であった。花見平のベンチにて、槍を眺めながら朝食をとる。ここから大ノマ乗越までかなりの下山で予想通り大ノマ岳の登り返しはきつかった。小さなピークを2, 3登り秩父平付近では一面ガスがかかりまったく視界が利かなくなった、縦走路をトラバースしていると抜戸岳山頂分岐に出る。ザックを置き山頂へそして明日の下山ルート分岐を確認し笠方面へ進んだ、道が突然広くなりカール部へ出たそこは笠ヶ岳のテント場であり前方に石に囲まれた山荘その上に石を積んだ笠山頂が見えた、一息入れて山荘へこれが又きついゴール前の苦しみを味わう思いだ。11:45 着いた、山荘前で元会員の岸野さんに出会う、懐かしいやら嬉しいやらやっぱり仲間はいいね。山頂には15分で着いた祠で安全祈願をし山荘へ、今日は予約でいっぱいとのこと(結果的にはゆっくり寝ることができた)談話室で差し入れを片手に山談義に花を咲かせた、、そして夕日を見に外のテラスへ陣取る、時々ガスが消えて山頂や穂高の稜線が見えると歓声が上がる。部屋の環境はとにかく暑かった。廊下に寝る人も多数いて夜中のトイレは身体を踏まないよう注意が必要だった。

☆笠ヶ岳山荘～ 杓子平～ 笠新道登山口～ 新穂高

今日の行程から判断して出発時間を1時間繰り下げた。又ザックを少しでも軽くする為朝食は宿食にしたが?混み合うトイレやっぱり弁当が良かったかな!(今後は携帯トイレの持参も頭に入れておこう)今日も御来光をみろぞ、5時前よりテラスの前でカメラを構え待つこと数分大喰岳左肩付近より太陽が顔を覗かせた、歓声と共にみんな何を祈ったことか、、太陽は見る見る登っていった。昨日はガスで見えなかったが抜戸岳手前の分岐付近まで縦走路が良く見えた。7:15 杓子方面へ下っていった。大小の岩陰より高山植物がさきみだれ見上げる笠ヶ岳や抜戸岳は絶好のフォトスポットである。そして笠新道へ長い長いつづら折れの下りであった、新道登山口には10:55 着くここからは苦手な林道歩きだ。



やっぱり下界が恋しいペースが上がる。もっと余韻を楽しみたい人もいたろうに!新穂高の食堂で昼食をとり無料の露天風呂や砂防会館で見識を深め、表銀座グループ、上高地グループと合流し15:00 佳留萱旅館へチェックインした。夕食前、部屋で全員のミーティングがあり、事故や病気で3人が山行を中止した件についての経過報告が、砂川会長よりあった。

☆佳留萱 高山市内散策 帰路(解散)

頑張った者の特権か、いつものように朝の露天風呂そして食前酒(ビール)で乾杯、どの顔も満足感でいっぱいようだった。

帰路は上高地グループと合流し高山市内散策に出かけた。しかし下界は暑いね！朝市はうわさ通り、色々な物が陳列されてまさに縁日買い物より目を和ませてくれる。私はオッチャンの口車にからかうつもりが乗せられて精の付くというマタタビを買った。後イベント館へ行き魚料理の食堂へここでの食事が今年の夏山解散式となった。

☆反省とまとめ

- ・レーション⇒ 全体的に持ちすぎ、重いもの缶詰等はさける、酒肴品も考える必要有。
- ・小屋の生活⇒夜中は大きな声を出さない。起床時間を守る（早すぎるのもいけない）
- ・ルートファインテング⇒西鎌尾根の地形分析が甘かった。
- ・共同装備⇒ ザイル、ガスヘッド、ガス、ツェルト等一人で持つのは問題あり。
- ・歩行ペースと休憩⇒ 歩き方は靴裏全体のグリップを利かせてゆっくり歩くのが基本であるが、歩行ペースは縦走登山の場合、一日の工程時間によってある程度決まってきます。むしろ、50分歩きの10分休憩を守れる体力精神力の養成が必要である。（山の傾斜や難易度にもよるが。）
- ・下山ルートでは（笠新道）2番手が遅れ気味なのにトップ（今山）は計画どおりのペースで歩いた。林道歩きももっと心に余裕を持って歩くべき。
- ・最後に、今回のメンバーは私以外、全員昨年度の入会者で山歴も浅く、縦走登山のルールや難しさを実感したことと思います。私は反省をまとめてみましたが、つきつめればその時その場で責任を持ってリードして行くべきだったと思います。

何はともあれメンバーの皆さんと楽しい思い出ができて感謝しております。ありがとう御座いました。

◆ 槍ヶ岳へ挑戦

松尾

山城：上高地コース

山名：槍ヶ岳

日程：平成 19 年 8 月 17 日（金）～19 日（月）

1 日目

8 月 17 日から 3 泊 4 日の予定で槍ヶ岳へ出発。3000 メートル級の山行は未知の挑戦、わくわくよりも不安が大きい。ほんといけるのか、気持ちに余裕がない。楽しみよりも苦しさのほうが・・・。

いやいやそんな取り越し苦労をせず楽しもうと気持ちを入れ替えて高砂を 5 時 30 分に出発。上高地を目指す。途中 大津パーキング、長良川パーキングで休憩を取りながら目的地平湯駐車場へ向かう。東海北陸道で交通事故渋滞に 2 度も遭遇し、到着予定時間よりも 1 時間近く、遅くに上高地に到着。いよいよ、これから未知の山に挑戦である。以前にきた上高地とは何かが違う。河童橋、明神池・・・

観光と山行、自分の気持ち、見る目と考えながら進んでいく。上高地から横尾山荘まで 11 km。途中、明神、徳沢と 1 時間おきに休憩ポイントがある。徳沢から横尾へは 3.8 km。これが事前の予備知識であったが、予定より遅くなったために休憩をカットしての歩きとなる。笹と樹林の平坦な道を緩やかな起伏にかなり長い樹林帯のスロープを登る。前方に前穂高や北尾根が一望できる。3 時間ほどで山荘に到着。山荘には多くの人が・・・、皆若い。見る人、見る人、山のベテランに見える。

上高地・槍ヶ岳 L: 舩賀 長谷川・松尾・渡邊
H19.8/17～20 砂川美・金島

場 所	着	発	摘 要
8月17日			
高砂		5:30	
京都東	7:00		
おおつSA	7:15		
高山分岐	8:40		
長良川P	9:10		
清見IC	10:50	11:00	中部縦貫
高山西IC			ななもり清見
平湯Pキング	12:30		アカンダナ
上高地	13:00		タクシー
	14:00	14:20	梓川のほとりで
	15:00	15:10	ヘリコプター
横尾山荘	16:20		ビール

2日目

横尾山荘を5時00分出発。昨日の疲れが多少ある。これからが本番というのに。一ノ俣、二ノ俣を渡りしばらく行くと槍沢ロッジがある休憩か？リーダーの休憩の言葉でほっとする。これからは樹林帯の中を進む。気温低くなったのか汗もかかなくなったが次第にきつくなってきた。景色も見えないし余裕も無いひたすら前に進んでいる。天狗原の分岐、さらに登りがきつくなってきた。そのとき前方に槍岳が、あの山へ、あそこまで・・・坊主の岩小屋を過ぎて殺生ヒュッテを右手に見ながら斜面のジグザグを繰り返し登っていく。見えた槍岳山荘、疲れが吹っ飛んだ。それからが長い、なかなか近づけない、体力の消耗激しい。今日の行程1500メートルの登り、10時間20分かかった。かかりすぎか？でも私にはかかりすぎでない目的達成である。山荘で休憩した後、日本でも5番目に高い山の頂上に立つ。生易しい所ではない、3点確保し確実に慎重に進まないと危険、気を抜かずに・・・先輩のアドバイス、相当の人が登っている、混雑しているためハシゴは慎重にと教わってきた。本当に大変な所と感じたその分登った価値があった。

場 所	着	発	摘 要
8月18日			
横尾山荘		5:00	
槍ロッジ	7:00	7:20	朝食(おにぎり)
ばばだに	8:20	8:30	
五郎沢			
水俣乗越分岐	8:40		
	9:00	9:10	ヘリコプター
	10:00	10:10	
	11:30	11:40	槍ヶ岳山荘見えた
槍ヶ岳山荘	14:20		登 夢のようです
槍ヶ岳			ビール500・水900
8月19日			
槍ヶ岳山荘		5:20	槍で見る日の出(感涙)
	6:00	6:15	ガラガラ道
	7:00	7:15	笠ヶ岳見える
槍平小屋	8:30	9:10	B班とティータイム
	10:15	10:25	雪解け水美味
林道に出た	12:15		
新穂高	14:00		無事下山 万歳
佳留萱山荘	15:00	8:30	乾杯
8月20日			
高砂	19:00		

3日目

槍岳山荘からのご来光、これもこの場所でしか見られないものを山行の皆さんと共に見ることができた。写真も多くおさめた。晴れるということのありがたさを感じた。5時15分ご来光の余韻に浸りながらの下山となった。これからは一目散に降りるのみ、登るより降りるのがいやである。足にくる慎重に降りたい。今日の行程は9時間とのことである。3日間の行程で色々な高山植物が咲いていたが見る余裕が無かった。少しは写真を撮ってきたので後でゆっくり楽しもう。この行程を逆に登ったグループがある。槍平小屋に一泊してと聞く。これは大変なコースだ。

最後の宿「佳留萱山荘」に総勢21名が集合。槍ヶ岳登頂を祝って懇親会。最後の締めくくりとして最高の場所で山行の仲間と夜遅くまで懇親ができた。皆さん、おつかれさまでした。お世話になりました。

4日目

帰りはそれぞれの計画のもとでの帰りとなり、私ら6名とAグループの6名で高山を散策、高山の朝市を堪能、昼食後に解散し、それぞれのパーティーごとに車で帰路に着く。高砂に18時50分に到着、無事夏山山行を終える。気力体力ともに充実した4日間であった。

